

STAGE+を楽しむ(192)(HP 収載)
—バレンボイムのブルックナー交響曲 4 番—

1. 始めに

前報(191)に引き続き、STAGE+のブルックナーの交響曲第 4 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+の演奏を選びました。

バレンボイムが指揮するブルックナーの交響曲第 4 番

シュターツカペレ・ベルリン

収録日: 2010 年 6 月 20 日

450 年を超える伝統を誇る世界最古級のオーケストラ、シュターツカペレ・ベルリンは、1992 年から 2023 年まで音楽総監督を務めたダニエル・バレンボイムと 30 年以上にわたって密接な関係を築きました。この長年のコンビは、オーケストラやオペラの中心的なレパートリーで賞賛を得てきましたが、ブルックナーの交響曲もその例に漏れません。2010 年 6 月、ベルリン・フィルハーモニーで一週間にわたって交響曲第 4~9 番が演奏された模様が収録されています。こちらの映像でご覧いただけるのは、1874 年に作曲された交響曲第 4 番《ロマンティック》。1881 年ウィーンでの初演以来、多くの改訂を経ていますが、今なお熱狂的な支持を受ける作品となっています。

ソリスト:

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

演奏:

シュターツカペレ・ベルリン

指揮:

ダニエル・バレンボイム

曲目:

アントン・ブルックナー

交響曲第 4 番変ホ長調《ロマンティック》 WAB 104 (1878/80 年稿、ハース版)



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

最近、配信サイトにブルックナーの作品が多く公開されるのは、本年がブルックナー生誕 200 年ということのようで、今回の演奏もその一つで 2010 年の収録が公開されたものです。

ブルックナーの 4 番は、ベーム指揮ウィーンフィルのアナログ盤がありますし、ベルリンフィルデジタルコンサートホールでもお馴染みです。また、ブロムシュテットがバンベルク響を率いて来日した時の演奏を聴いています。

今回のバレンボイム指揮シュターツカペレ・ベルリンの演奏は、ベルリンフィル大ホールでの収録です。

ブルックナーの 4 番は、重厚で壮大な表情から、美しく流れるような旋律、メランコリックな表情など、様々な表情を刻々展開していきますが、バレンボイムの引き締まった指揮が、伝統あるシュターツカペレ・ベルリンの重厚な演奏を引き出しています。音質的にもベルリンフィル大ホールの収録なので、ベルリンフィルの演奏によく似ています。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、バレンボイム指揮シュターツカペレ・ベルリンの演奏の表情の展開を的確に表現しています。

以上